

市の防災対策

避難所の機能を強化▶

大規模災害時の拠点となる荻野運動公園に蓄電池を設置し、今年は太陽光発電設備を取り付けます。さらに浸水想定区域内にある避難所の被害把握・解消のため調査を進めています。
☎危機管理課☎225-2190



▶雨水貯留管で浸水対策

本厚木駅周辺の浸水被害軽減のため、中央公園地下を起点に工事を進めている雨水貯留管が来年度完成します。あさひ公園地下雨水貯留施設と併せて、小学校のプール約54杯分の雨水をためられるようになります。☎下水道施設課☎225-2370



募集 企業などの浸水防止対策費用を補助

浸水被害を防ぐために対策工事などをする企業や管理組合などに費用の一部を補助します。
《対象物件》店舗、事務所、工場、集合住宅（マンション）、テナントビルなど
《補助額》対象経費の3分の1（上限3000万円）
《補助条件》災害時に避難施設として提供する協定の締結
☎市HPにある申請書を危機管理課☎225-2190へ。審査あり。

適切な情報収集を

防災行政無線で市からの緊急情報を発信します。内容は下記の方法でも確認できます。

市ホームページ

災害時は、市HPのトップ画面に災害情報を掲載します。

LINE 市公式アカウント

対話アプリ「LINE」のメッセージで情報を発信します。避難所の開設状況も確認できます。

《登録方法》

- ①「LINE」アプリをインストールし、ユーザー登録
- ②ID「@atsugi_city」で検索または二次元コードで厚木市のアカウントを友だち登録

防災行政無線メールマガジン

事前に登録したEメールアドレスに、防災行政無線の内容を送信します。遠方にもメールが届き、市内の状況がわかります。



登録はこちら

Check✓ 車中避難の場合

- 豪雨・強風の中での移動は危険。状況を確認して避難
- 浸水しないか周囲の状況を確認
- 水を飲む、体を動かすなどエコノミー症候群の対策を



車中避難のための駐車を開放

市では、避難所開設時に車中避難ができる駐車を開放します（開放状況は市HPに掲載）。
●文化会館（200台）
●荻野運動公園（300台）

Check✓ 知人宅やホテルの場合

- 災害時にすぐ行ける距離にあるか
- 事前に避難する旨の了解を得る
- 避難時に必要な物品を用意
- ホテルなどは空室状況を事前に確認

分散避難

近くにある安全な親戚・知人宅、ホテルへの避難や、車中避難をする。

▼避難の判断は警戒レベルを確認

警戒レベル	避難情報など	取るべき行動
5	緊急安全確保	直ちに安全確保
警戒レベル4までに必ず避難		
4	避難指示	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	避難に時間を要する人は避難
2	大雨・洪水注意報	避難行動を確認
1	早期注意情報	心構えを高める

安全に避難するには、警戒レベルや避難所の開設状況など正しい情報を得ることが大切です。情報を得る手段は複数用意しておきましょう。

t v kデータ放送

防災行政無線の内容をテレビで配信します。設定は不要。

《操作方法》

- ① テレビで「3チャンネル（テレビ神奈川）」を選択
- ② リモコンの「dボタン」を押す
- ③ 緑色のボタンを押し、厚木市のページを表示
- ④ 「防災・安全情報」を選び、決定ボタンを押す

防災ラジオ

普段はラジオとして使え、緊急時は防災行政無線の内容を優先して放送します。有償配布は市HPで確認。

- 一般のラジオでも、市からの緊急情報を放送します。
- ◆FMヨコハマ（84.7MHz） ◆FMカオン（84.2MHz）

テレホンサービス ☎0180-994422

防災行政無線の内容を電話で確認できます。通話料は有料。

洪水・土砂災害警戒情報プッシュ型配信

県が携帯電話事業者の緊急連絡メールで配信します。事前登録は不要。

いざというとき、どう避難する？

風水害は、規模や時期が事前にある程度予測できる災害です。いざというときにどう避難すべきか確認しておきましょう。



まずはオールハザードマップを確認

洪水・浸水、土砂災害、地震で想定される被害の危険性を地図で確認できます。今春に全戸配布しました。



市HPにも掲載

自宅は…

ある ←

密集を避けて避難できる場所がある

↓ ない

指定緊急避難場所

危険がある場合、小学校や公民館などの指定緊急避難場所へ避難する。

Check✓

- 警戒レベルを確認（左表参照）
- 避難所の開設状況を確認
- 避難時に豪雨や強風などの危険がないか
- 避難経路に浸水などの被害がないか
- 非常用持ち出し袋を持って行く（右下表参照）

ある ←

洪水・浸水・土砂災害の危険がある

↓ ない

在宅避難

安全を確保できる場合は自宅にとどまる。必要な物品を備蓄しておきましょう。

Check✓

- 洪水・浸水・土砂災害の危険性が高い区域に入っていない
- 自宅が2階建て以上・鉄筋構造など強固な造り
- 内水・浸水ハザードマップも併せて確認
- ※上記の項目などから総合的に判断してください

自宅でできる備え

日頃から災害発生時の行動を考えたり、家族で話し合ったりすることも減災につながります。備蓄品なども併せて確認しましょう。

■災害時の行動を確認

避難の必要があるかどうか、家族との連絡方法や集合場所、避難する場合は経路を確認しておきましょう。



マイタイムラインを作る

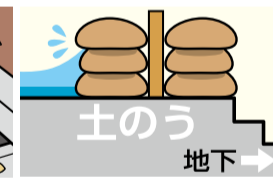
避難時の行動を時系列や役割別で記入でき、家庭ごとの災害時に取るべき行動がまとめられます。オールハザードマップに掲載。

■自宅や周囲の点検

窓・屋根の補強や、飛ばされやすい物がないか、雨どいや周囲の側溝に詰まりがないかなどもチェックしましょう。浸水が想定される場合は、土のうや水のう、被害を防ぐ止水板の設置も有効です。



排水ますの清掃



土のうや止水板を設置

■止水板の設置費用を補助

浸水被害を防止・軽減する止水板の設置費用などの一部を補助します。

《対象》住宅、集合住宅（マンション）、店舗、事務所などへの設置・購入費用
《補助額》対象経費の2分の1（上限50万円）
☎工事などの着手前に申請書と必要書類を下水道総務課☎225-2362へ。審査あり。条件などの詳細は市HPに掲載。

在宅避難に必要な備蓄品

◆飲料水・食料・生活用品

- 飲料水（1人1日3ℓ）
- 食料
- 卓上コンロ（ガスボンベや固形燃料）
- 食器・やかん・鍋など
- 缶切り
- 紙コップ・紙皿
- ナイフ
- 衣類・ハンカチ・タオル
- 毛布
- ティッシュペーパー
- 軍手
- トイレトペーパー
- 洗面用具
- 非常用給水袋
- ろうそく
- ライター・マッチ
- 携帯（簡易）トイレ
- ドライシャンプー

◆応急医療品

- ばんそうこう・ガーゼ・包帯・消毒液
- 風邪薬
- 解熱剤
- 胃腸薬
- 常備薬
- お薬ノート

◆あると便利な物

- 食品用ラップフィルム
- 電池
- アルミホイル
- 使い捨てカイロ
- 新聞紙
- ビニール袋
- のこぎり・ボールなど
- 安全ピン

わが家で必要な物は？

-
-
-

■非常用持ち出し袋や備蓄品を用意

非常用持ち出し袋の用意や食料などの備蓄をしておきましょう。必要な物や数は家庭によって異なるため事前の確認が必要です。賞味・使用期限など定期的に点検しましょう。

非常用持ち出し袋

◆貴重品

- 現金
- 身分証明書
- 印鑑
- 健康保険証
- 携帯電話
- 懐中電灯
- 通帳・証券類

◆応急医療品、避難用具

- 救急用品（ばんそうこう、消毒液など）
- 懐中電灯
- ヘルメット（防災頭巾）
- 携帯ラジオ
- ステッキなどの探り棒
- 軍手
- スリッパ

◆感染症対策用品

- マスク
- ウエットティッシュ
- 手指消毒液
- 体温計

◆飲料・食料・生活用品

- 飲料水
- 非常食（缶詰めなど）
- 筆記用具
- タオル
- 生理用品
- 雨具
- モバイルバッテリー
- 毛布

◆ペットがいる場合

- 飲料水・食料
- キャリーケース
- トイレシート

◆乳児がいる場合

- 粉ミルク
- 哺乳瓶
- おむつ

◆高齢者がいる場合

- 介護用品
- 常備薬
- 流動食



わが家の防災

市民の皆さんの防災対策や備えていることを聞きました。

近所とのつながりの大切さ感じる

小野 勝春さん（88・旭町）



高齢になり不安もありましたが「心配事があったら声を掛けてね」と言ってもらい、地域の皆さんとのつながりの大切さを感じています。

子どもの成長に合わせた備えを

牧田 大輔さん（36・愛甲）



子どもが生まれてから、災害への備えをより意識するようになりました。当時は赤ちゃんを避難所で過ごすことを考え、妻と相談して離乳食やおむつ、衣類などをそろえました。急いで避難する場合もあると思い、車にも非常食を用意しています。子どもの成長に合わせて、必要な備えは変わってくると思います。これからも定期的に見直していきたいです。

ハザードマップで危険性を実感

高澤 淳さん（28・金田）



ハザードマップを見て自宅付近の危険性が高いことを知り、備え始めました。食料品や水、電池、携帯トイレ、ランプ、カセットコンロなどを家族6人分備蓄したり、普段から避難経路を話し合ったりしています。消防団の活動で増水した川を目の当たりにし、災害はいつ自分に降りかかってもおかしくないのだと実感しました。これからも備えを続けていきたいです。